

平 氏 政 権

次の文を読み、下の問いに答えよ。

院は、藤原氏やそれを支えてきた源氏の進出を退けるため、伊勢・伊賀地方を根拠地にしていた桓武平氏を登用した。a清盛の父は、瀬戸内海の高僧を平定した功によって、鳥羽法皇の信任を得ることになり、のちの西国における平氏勢力拡大のきっかけをつくった。清盛は、*1156年とその3年後に起こった乱を通じて生き残り、最後の勝者となって、b「c此一門にあらざらむ人は皆人非人なるべし」といわれるほどのc一族繁栄の時代を築いた。この二つの乱は、貴族間の争いの解決のためには、もはや武士団の力に頼らざるを得ないという時流を示すものであった。清盛はそうした武士たちの棟梁として君臨した。しかし、平氏は全国の半数近くの国を支配したものの、多数の公卿・殿上人などを出したり、天皇の外戚になったりしたため、武士政権でありながら藤原氏に類似したものとなった。

琵琶法師が「祇園精舎の鐘の声、沙羅双樹の花の色、盛者必衰の理をあらわす」と語り伝えたように、平氏の興亡は華々しく、また、はかないものであった。

『平家物語』などによると、清盛をささえる一門には、個性的な親族や武将たちがいた。d清盛の長男は、平家の嫡子としてみごとな戦さぶりを示すが、他方では仏教にも深い信仰を寄せていた。eその長男(清盛の孫)は、f倶利伽羅谷の戦いなど二つの合戦の総大将であったが敗れ、のちに高野山で髪を落し、熊野の沖で27歳の人生を終えた。g清盛の三男は沈着であった。壇ノ浦の戦いで敗戦を覚悟したとき、すべての戦況を確かめたうえで2個の鎧を重石がわりにして海に沈んでいく。天皇の中宮となったh清盛の娘も、その海に身を投じたが救われ、i大原の尼寺で生涯を閉じ、後世に悲話として伝えられることになった。

問1.文中のa~jの下線部分について、以下の設問に答えよ。

- 清盛の父の名を記せ。
- このように話したといわれる人物は誰か。
- 最初の乱から平氏滅亡の年まで数えると、一族繁栄の期間は約何年間続いたか。
- 人間の生について『平家物語』をつらぬいて語られている仏教観を何というか。
- 清盛の長男とはだれか。その名を記せ。
- 清盛のこの孫の名を記せ。
- 倶利伽羅谷の戦いの3年前のもう一つの合戦を何とよぶか。
- 清盛のこの三男の名を記せ。
- 清盛のこの娘の仏門に入ってからのおよび名を何というか。
- 大原のこの寺の名を何というか。

問2.文中の*を付した、二重下線部分に関する二つの乱について、次の一覧表の(1)~(5)の空欄に、各乱に関係が深い人物で、平氏と対立するか、または平氏の味方とはいえない人物の名を、語群から1名ずつ選び、記号で答えよ。

乱の発生年	法皇・上皇	藤原氏	源氏
1156年	(1)	(2)	-
1159年	(3)	(4)	(5)

<語群>

イ 忠通 口 信頼 八 通憲 二 義朝 ホ 鳥羽法皇 ヘ 頼朝 ト 崇徳上皇
チ 頼長 リ 後白河上皇 ヌ 道長

解答

問1a 平忠盛 b 平時忠 c 30年間 d 無常観 e 平重盛 f 平維盛 g 富士川の戦い
h 平知盛 i 建礼門院 j 寂光院
問2(1) ト (2) チ (3) リ (4) 口 (5) ニ

